

# 「考動力」を培う「アジア夢カレッジ」

亜細亜大学アジア研究所教授「アジア夢カレッジ」運営委員長 西澤 正樹

NISHIZAWA Masaki

キーワード： 中国、海外インターンシップ、キャリア支援

亜細亜大学「アジア夢カレッジーキャリア開発中国プログラムー」は2000年12月より、亜細亜大学らしい夢のある人材教育プログラムを検討する中から構想された。2004年に「アジア夢カレッジ」第1期生30名を迎え開講し、2014年4月には第11期生を迎える。

「アジア夢カレッジ」の理念は亜細亜大学の建学理念である「アジア融合に資する人材育成」を礎とし、「日本とアジアの架け橋となろう」とする高い志を抱き、実現しようとする学生を育てるようとするものである。

その教育の基本方針は、学生自身の能動的な学習を強く促しつつ、幅広い視点をもってアジアの現実社会をしっかりと見つめ、アジアを舞台とする自らの将来目標を描き、目標（夢）に向かって一つひとつハードルを越えていく能力（自ら考え行動する力「考動力」）を身に付けさせることにある。

学内での教育体制の特徴は次の3点。

## ① 学部とのダブルメジャー教育

「夢カレッジ」生は経営、経済、法学、国際関係の各専門学部にも所属しつつ、並行して「アジア夢カレッジプログラム」を受講する。2つの専門性を関連付けて学ぶことで世界、アジア、日本に対する視野を広げ、専門分野に対する意識を高め、より現実感を持って学習に取り組む。

## ② 学部横断の教育展開

学部の枠を超えたカリキュラムによる教育を展開することで、学生および教員間の交流を深め、関心領域を広め、相互に切磋琢磨する環境を生み出す。

## ③ 少人数教育

ゼミナールおよび中国語は少人数教育を基本としている。1年次から始めるゼミナールでは学外でのフィールドワークを実施し、学内外に向けて研究成果報告会を開催するなどして「現場から学ぶ」姿勢を養い、自身のキャリア開発の基礎作りを行う。中国語では1年次に中国語検定3級以上の取得を達成目標とし、これを留学派遣の絶対要件としている。集中的な中国語カリキュラムを組み、11月、3月の検定試験前には集中補講を行っている。

学外との教育体制では「4年一貫の産学連携教育」「中国・大連留学」「海外ビジネ

スインターンシップ」を特徴としている。

#### ① 4年一貫の産学連携教育

アジア夢カレッジを支える重要な柱は産学連携による教育である。大学教育は教員がキャンパス内で行うものといった考え方を超えて、企業や地域社会と連携してグローバル社会で活躍できる若者を育成すべきとの考えのもとでプログラム構想段階から産業界に協力を仰ぎ、趣旨に賛同された国内36社・海外25社・その他公的機関との連携による4年一貫のキャリア教育プログラムを構築している。

1年次・2年次前期の留学派遣前の事前教育においては、アジア・中国に関する経済、社会、文化、政治、歴史の基礎理解を深める講義、学生が自己研究テーマを設定し基礎文献・資料の分析・発表する授業および社会人マナー研修への講師派遣、夏季休暇中のフィールドワークでの現場学習機会の提供、中国語スピーチコンテストや帰国報告会など授業外での指導助言を頂いている。

2年次後期の留学派遣では、海外ビジネスインターンシップの受入れ、オムニバス講義への講師派遣、海外フィールドワークでの指導助言を頂いている。

3・4年次の帰国後フォローアップでは、アジア・中国の第一線の現場で活躍されてこられた方々によるオムニバス講義への講師派遣、国内インターンシップの受入れ、「夢カレッジ」修了作品の中間報告会（3年次生）、成果報告会（4年次生）での指導助言を頂いている。

このように、「夢カレッジ」の教育プログラムに協賛頂いている企業・機関の方々には、アジア・中国に関心を寄せ「夢カレッジ」に参加する1年次生から、「夢カレッジ」を修了し社会に向かう4年次生までの間、個々の顔が見える関係のもとで指導助言を頂きながら学生の成長を見守って頂いている。

#### ② 中国・大連留学

留学派遣要件を満たした「夢カレッジ」生は2年次後期の150日間、大連外国語大学漢学院に留学する。各国の留学生とともに学ぶ中国語の授業では、留学期間中に中国教育部が認定する中国語の語学検定試験 HSK（漢語水平考試）を受験し5級以上の取得を目標としている。昼は教室で、夜は学生寮で中国人ルームメイトとの共同生活を過ごし、24時間体制で中国語漬けの日々を送っている。

中国人ルームメイトの日本語を学ぶ真剣な姿勢に触れ、中国語を学ぶ明確な目的を持って留学してくる各国の留学生と共に学び交流する中で、「夢カレッジ」生は大いに触発され、視野を広げ、「中国語を学ぶこと」「自分の将来を考えること」の認識を深めていく。

オムニバス講義「中国の仕事と生活」は、大連で働く方々の現在と今後に向けた考え方、日本人が海外で働き生活すること、日本企業と大連との関係を理解し、日本と中国に関わり働く意識と姿勢を養うことを目的としている。大連の日系企業、公的機関（日本国在瀋陽総領事館大連出張駐在官事務所、JETRO 大連事務所、大連経済技術開発区管理委員会（現・金州新区管理委員会））等から講師を招き、現場参観を含む13回の講義を開講している。「夢カレッジ」生は中国人ルームメイトとともに受講し、意



写真1 留学授業風景

見交換しつつ毎回の講義レポートを作成し講師にお返ししている。

また、中国社会ならびにアジアの歴史、文化への関心、知識を高めることを目的とする「知の探検－中国の伝統と文化－」では、大連外国語大学が開講する「中国旅行地理」「中国史概観」「中国書道」「中国画」「中国民族」「中国文化」「民族楽器」「気功」「太極拳」「調理実習」等から最低2科目を選択し、各国の留学生と

ともに講義や実習に参加し期末レポートを作成している。

留学期間中は大連外国語大学で日本語を学び、日本に関心を寄せる中国人学生と学生寮で共同生活を過ごす。プログラム準備段階で「中国人学生との相部屋生活をさせたい」とする「夢カレッジ」の提案に対して、中国には外国人との共同生活に制限があり実現は難しいとされたが、当時の大連市人民政府の夏徳仁市長は「大連市は亜細亜大学「アジア夢カレッジ」を全力で支援する。日中共同の国際教育モデルとなるよう全面的に協力する」との決断を示され、日中初の学生共同生活が実現したものである。

中国語能力を高めたい「夢カレッジ」生と、日本語能力を高めたい中国人ルームメイトは、お互いに相談し使用言語のルールを決め共同生活に臨む。同世代の若者同士で趣味や関心を語り合い、勉強を教え合い、休日を共に過ごす中で価値観の相違を理解しながら相手を尊敬し合う関係を構築していく。

5ヵ月間の留学を修了した後、さらに延長滞在し中国国内各地への旅行を行う学生、中国人ルームメイトの実家に招かれ家族とともに春節を過ごさせてもらう「夢カレッジ」生もいる。「一生の友人ができた」という学生同士も少なくない。こうした「ミクロの信頼関係」の積み重ねが日中の本格的な和解を導いていくことになろう。



写真2 中国人ルームメイトとの共同生活



### ③ 海外ビジネスインターンシップ

12月中旬から5週間、「アジア夢カレッジキャリア開発中国プログラム」のハイライトである「海外ビジネスインターンシップ」がはじまる。インターンシップでは中国と関わり働く意欲、目的意識、基本能力を備えた人材を養成することを目的とし、以下の取り組みによってアジアで働くことの意味や将来に求められる知識、資格、心構えなどについて、より明確に理解することを期待している。

- 1) 中国の理解 : 中国で働き生活することを体験し理解を深める
- 2) 就業観の確立 : 中国と関わり働くことの目的意識を明確にする
- 3) キャリア開発 : 中国と関わり働くために必要な能力を高める

大連の企業・機関で働く中国人社員・職員と日本人社員・職員の方々から働く姿勢、仕事に対する「思い」、将来への夢などを学び、お聞きし理解するために、実習先企業・機関に3つの学習機会を提供して頂き、「夢カレッジ」生は日々の実習日誌を提出し、指導担当者からのコメントを頂いている。

- 1) 大連事業所・機関の仕事の理解
- 2) 現場での実習
- 3) 中国人幹部社員、日本人駐在社員の方々からのご指導

海外ビジネスインターンシップでは、これまで29の企業・機関（日系企業18社、中国企業7社、韓国系企業1社、公的機関3機関）に実習生を受け入れて頂き、夢カレッジ9期生までの131名が実習を修めた。プログラム開講当初のインターンシップ受入れ先15社は日系製造業を中心としていた。その後、サービス産業の中国進出の動きが活発となり、夢カレッジ生のキャリア形成志向もサービス産業に傾斜していることから、新たなインターンシップ受入れ企業・機関を開拓し現在の態勢となった。

大連経済技術開発区（昨年から金州新区）に立地する企業では、社員寮に入寮させ



写真3 中国旅行会社でのインターンシップ実習

て頂き、社員の方と生活を共にさせてもらう。大連中心市街の事業所・機関へは大連外国語大学旅順キャンパスの学生寮からバス通勤を行う。インターンシップは基本的に1名で行うため、実習期間中の時間管理、健康管理、トラブルへの対処等には、まさに「考動力（自ら考え行動する）」が試され実践することになる。

大連外国語大学での学

習・生活は、国籍は異なるけれど同世代の大学生といった概ね均一的な集団の中で過ごしている。しかし、インターンシップ実習先は年齢差が大きく、多様な背景・経験・価値観を持つ社会人の集団の中で自分の位置を見定め、よりいっそう責任を自覚した判断と行動を求められる。「差異」を認めつつ、自分の意見を中国語で明確に伝え、お互いに理解し合い折り合いをつけていかななくてはならない。

ダイナミックに変動する中国社会の「現場」に身を置き、仕事と生活を経験することで「夢カレッジ」生は社会人としての基本を学び身につけていく。

「夢カレッジ」生は、自己研究テーマを持って大連留学に臨む。1年次・2年次前期に調査してきたテーマを引き続き大連現地でフィールドワーク、インタビュー、アンケートなどで追求していく。調査研究の成果は、帰国後2月に開催する帰国報告会においてポスターセッション方式で報告するとともに、「大連留学・インターンシップ報告書」として取りまとめ出版している。

この10年間、「アジア夢カレッジキャリア開発中国プログラム」は試行錯誤と改善を積み重ねてきた。次の10年に向けてパートナーの大連外国語大学、日本の産業界から次のようなリクエストを頂いている。

亜細亜大学と大連外国語大学は、日中共同の国際教育モデルをさらに深め展開していこうとしている。亜細亜大学から大連外国語大学へ日本人学生を派遣する「夢カレッジ」を進めるとともに、大連外国語大学で日本語を学ぶ3年次生を毎年50名受入れる「2+2留学制度」を実施している。「2+2留学制度」は3、4年次を亜細亜大学の4学部にも所属し学部の専門教育を履修し、両校の卒業認定を得るという内容だ。「夢カレッジ」と「2+2留学制度」により、日中の双方向の留学システムが展開している。

今後、キャリア教育を充実させ亜細亜大学への留学生の就職支援をすることがテーマとなる。日本で留学生とともにキャリア形成を競い合うことは「夢カレッジ」生のみならず、日本人学生がグローバル社会で力を付ける環境を提供することになる。

産業界からは、グローバル人材育成の要望が高まっている。「夢カレッジ」開講当初は「中国で活躍できる人材養成」が強く求められていたが、中国自体が急速にグローバル化している中で「夢カレッジ」の教育プログラムも変化に対応し革新していかななくてはならない。

産業界、企業からの要請は「中国語と英語の二大言語能力の向上」であり、「グローバルに働くことへのよりいっそう明確な目的意識の醸成」である。海外ビジネスインターンシップを受け入れて頂いている企業からは「1年程度の長期インターンシップ」や日中学生を対象とした「大連地域の企業と大学のコンソーシアムによるインターンシップ」といった産学連携教育プログラムの提案を頂いている。

亜細亜大学「アジア夢カレッジキャリア開発中国プログラム」は、やや先行して産学連携による語学留学とキャリア教育プログラムに取り組んできた。これまでの経験蓄積を踏まえ、時代の要請に応える「アジア融合に資する人材育成」「行動力あるアジアグローバル人材育成」に取り組んでいく。